

9. 舞鶴市における高大連携と世代間交流の実践 —多門院ウォーク・東舞鶴高校授業・文書調査—

橋本 空

1. 舞鶴市 ACTR

文化情報学研究室では、2013年から継続して舞鶴市教育委員会・舞鶴地方史研究会などと連携し調査を実施している。2019年度は、舞鶴地方史研究会、東舞鶴高校とともに、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）「舞鶴地域の高大連携、世代間交流による文化資源を活かした地域振興」（研究者代表：東昇）をおこなっている。

2. 調査参加者

東昇、本庄総子（以上、教員）、有賀陽平（博士前期課程）、窪田竜也、竹河果穂、橋本空、藤岡春那（以上、3回生）、安部萌花、長谷川巴南（以上、2回生）

3. 多門院歴史探訪ウォーキング

文化情報学研究室と有志の2回生は、2019年11月17日、舞鶴市東部に位置する多門院地区で多門院歴史探訪ウォーキングをおこなった（写真1・2）。参加者は約20名であり、幅広い世代が交流することができた。各ポイントでは学生が紙芝居などを交えながら説明をおこない、その後、多門院歴史探訪ウォーキングの立案者である新谷一幸氏（多門院の将来を考える会会長）に補足説明をしていただくというかたちで5時間程のコースを歩いた。多門院地区の保有する文化遺産を地区内外の方に知ってもらえることができ、地域にとっても参加者にとっても貴重な機会となった。また、受付では多門院歴史探訪ウォーキングのパンフレットを配布し、実際に訪ねるコースの見どころについての見識をより深めてもらうことに繋がった。



写真1 多門院ウォークの様子



写真2 多門院地区の毘沙門堂

パンフレットの表紙デザインや文章などは学生が主体となって考え、今後の多門院歴史探訪ウォーキングでも使えるように作成した。当日参加者以外の方からも欲しいという要望があり、地域に根ざした企画の成果をかたちとして残すことができた。

4. 東舞鶴高校での高大連携授業

今回の ACTR のもう一つの柱である高大連携では、京都府立東舞鶴高校において、①6月24日、②9月30日、③10月28日、④11月18日、いずれも月曜日の1限もしくは1・2限に実施した。同校の廣瀬邦彦教諭のご協力のもと、日本史を学ぶ2年生が対象となった。内容は、①消えた舞鶴の特産品・桐実、②古代の丹後と塩、③200年前の道＝高校付近の国道？、④作方年中行事：200年前の舞鶴の正月・歴史研究と大学生生活、であった。いずれもこれまでの ACTR で蓄積された研究成果を活かし、舞鶴地域の特徴的な史料・テーマを取り上げた。また授業は、講義よりも大学生と高校生のワークショップに重点を置き、サークルなどの大学生活を語るなど様々な交流ができた（写真3）。

5. 木船家文書調査

ACTR の目的の一つに世代間交流があるが、その実践として2016年12月から文化情報学研究室と舞鶴郷土資料館の小室智子氏や舞鶴地方史研究会と共同で文書を調査している（写真4）。近世・近代の溝尻地区の木船家文書は、約1万点の大庄屋文書である。今年度は6・9・10・11・3月の5回、調査を実施した。東舞鶴高校の有志の生徒にも参加してもらい、写真撮影・ラベル・目録作成を進めた。



写真3 東舞鶴高校の授業



写真4 文書調査の様子